

二〇二三年三月一日(参加者一七名)

力込め二礼二拍手冴返る	うつぎ	なほ続く籠りの日々や冴え返る	やよい
円空仏裂けたる木目冴返る	かかし	学び舎に残る一灯冴返る	満天
父母眠る故郷の山の花辛夷	かかし	峡空へ祈る容や花辛夷	明日香
玻璃越しに星空見えて冴返る	こすもす	花辛夷いまも咲き継ぎ旧校舎	なつき
長谷寺の登廊ことに冴返る	明日香	冴返る互ひの思ひすれ違ひ	もとこ
花辛夷佇むごとし湖畔駅	みづき	休みては延ばす杖の歩花こぶし	やよい
食い渋る鮎はまだ底冴返る	豊実	一穢なく晴れたる空へ花辛夷	素秀
道連れは己が影だけ冴返る	うつぎ	冴返る突然に訃の知らせ来て	わかば
かのネオン一と文字点かず冴返る	宏虎	片頬を夕日に染めし辛夷の芽	うつぎ
シャツターに謝辞の貼紙冴返る	みづき	残雪と見紛ふ比良の花辛夷	せいじ
公園に子らの声満ち花辛夷	隆松	おみくじを結びしごとき幣辛夷	せいじ
冴え返る畳廊下の大書院	やよい		
靴先の感覚失せて冴え返る	ぼんこ		

WEB句会みのる選・二〇二三年三月一日